

主の降誕 日中のミサ
福音朗読 ヨハネ 1・1-5、9-14

2022.12.25 11:00

カトリック高円寺教会

主任司祭 高木健次神父

毎年クリスマスの12月25日の日中のミサでは、このヨハネの福音書の冒頭の箇所が朗読されます。このヨハネの福音書の「初めに言^{ことば}があった」という言い出しですけども、日本語だと「ある」と「いる」っていうのが別の言葉ですけども、だからほんとにだったらむしろ「初めに言がいた」っていうふうに翻訳するほうがふさわしいんじゃないかって習ったことがあります。つまり、ヨハネの福音書を書いた人、あるいは書いた人たちっていうのはある意味ではユダヤ教というか旧約聖書の背景の中で生きている神の民の人たちですので、「言」って言えば、抽象的な世界の原理とかではなくて、神様のことば、律法だし、神様の律法に示されている神のお望みのことです。それを完全に表してくれた人がいたんだ、その人がほんとうにこの世の中を照らしてくれたし、自分たちはその人に出会って人生が全く変わった、そこから全てが始まったと言って良いぐらいだっていう、最初のイエス様に出会った弟子たちが、「わたしたちはほんとに神様の望んでいらっしゃることの全てを表わしている、そういう人物に出会ったんです。そしてわたしたちは変わったんです。そのことについてこれから皆さんにお話ししていきます」っていう思いで書いたと考えられます。だから、難しい表現なんだけど、自分とは関係なくて何か抽象的な論理のことを述べているようなことじゃないんだということです。

だから、わたしたちもクリスマスごとにこのみことばに触れる、そういうひとつの機会として、自分がイエス様に出会っていく、信仰に出会ったときのことを思い起こしながら今の歩みを振り返ってみるということが大切なのではないかなあと思います。ヨハネの福音書では、最初にイエス様に出会った人が、また次の誰かをイエス様のところに連れて来る。イエス様を紹介する。そして、その人がイエス様と直接出会う体験をする。っていうような繰り返しの出来事のエピソードがいくつも繋がっているわけなんです。そのように、誰かにイエス様のことを紹介しようとするときに、聖霊によってその人はまた、誰かの仲介じゃなくて直接イエス様に出会うことができるようになりますということをヨハネの福音書は言おうとしているし、わたしたちはそれを信じている。聖霊の助けってそういうことですね。

なので、本当にキリスト信者としてわたしたちはイエス様とどのように対話をしているのかなっていうことを改めて思い返す機会としたいと思います。キリスト信者っていうひとつの、ある意味での教団というか団体に所属しているメンバーシップみたいな、そのことだけを見ているんじゃないで、それを通してやっぱりイエス様そのものに出会っていかなきゃいけない。じゃないともったいないというか、そのためにヨハネの福音書は書いているのに、そうじゃないとほんとにヨハネは泣いちゃいます。残念ですよ。

例えば、自分は信者である。だから海外旅行に例えばヨーロッパに行ったときに他の観光客が入れないような場所でミサを捧げることができましたとか、バチカンの中まで神父さんの引率で見に行くことができたとか、あるいは、社会の問題の中でカトリック教会で一声かければ何千人の署名が集まりますとか、あるいはこの教会が自分の居場所であるという、そのレベルで留まってはもったいないというわけです。

それはひとつのきっかけではありますけど、それを通して、一般的なメンバーシップだけじゃなくて、ほんとの意味でのキリストのメンバーシップですね。メンバーっていうのは英語で「一員」ということだけじゃなくて、手とか足とかの体の部分のことを表わしている。だからほんとの意味で、キリストに繋がって、キリスト教会のメンバーシップじゃなくて、キリストのメンバーシップ、人と人とが互いに繋がって、そしてイエス様に出会って行って、そして教会全体としてこの世にイエス様の存在を示し続ける、そういうものになっていく。そこに招かれてるんだってというのが、信仰の全体像であるべきなんです。

その中で一人ひとりが、自分に教会のことを、あるいはイエス様のことを紹介してくれた最初の誰かとの出会い、あるいは深まっていった経験、そして自分と祈りの中で対話したイエス様のこと、神様の呼び掛けのことが分かったような、聞こえたような気がするという経験、その一つひとつを、一番最初にはすべての人を愛したいと言う神様の御意思、望みを完全に表してくださったイエス様っていう方がいらっしゃるんだって、そしてその方と最初に出会った弟子たちの体験があるんだということを思い起こして、その体験を分かち合おうとするならば、その分かち合いを聖霊は助けて、わたしたち自身もほんとにイエス様とずっと出会いを深めていくことができるようになる。そのように信じております。

だから、今日、クリスマス、単純に自分と関係なくイエス様の誕生とか教会の大事な行事ということだけではなくて、一人ひとりの中にイエス様との対話を、その体験が与えられたという恵みを改めて思い起こしながら、また、今自分はどのように対話しているかな、イエス様のことを忘れがちだったら、またもう一回思い起こして、これから一緒に歩いて行こうという思いも新たにしながら、このクリスマスの恵みをお

互いのために祈り合って、そして一人ひとりの中にイエス様をお迎えしたいと思いま
す。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>